

て、まかりた、んとまけるほどに、
てる月を正木のつなによりかけてあかず別る、人をつながらん

河原左大臣

かへし

行平朝臣

かぎりなき思のつなのなくばこそ正木のかづらよりもなやまめ

〔十六夜日記〕十九日建治三年十月略すのまたとかやいふ川には、舟をならべて、まさきのつなにあらん、かけとめたるうきはしありいとあやうけれどわたる、

鳳仙花

〔饅頭屋本節用集保木〕鳳仙花

〔多識編二〕鳳仙、今案保禰奴岐、俗云保。宇。世。牟。久。和。

〔書言字考節用集六〕鳳仙花ホウセンカ、金鳳花キンボウカ、異種同名多、又

〔尺素往來〕先爲庭上之景、莊嚴前栽、仕候。○中。秋。花。者。○中。鳳。仙。花。

〔大和本草七〕鳳仙花、一名金鳳花、又名夾竹桃、其實急性子、其花數品アリ、女兒此花ト酢漿草ノ

葉ヲモミ合セテ爪ヲ染ム、紅色トナル、六七月ニ花開ク、其實ハ骨髄ヲ治、

〔重修本草綱目啓蒙十三下〕鳳仙、ホウセンカ、通名、ツマグレナキ、古名、ツマベニ、ツマ子。

肥前、ホウセンカ、ツマグレ、英前、ツマグレ、同上、トビシヤゴ、豫州、ミヤコワスレ、藝州。

カウセンクハ南部、一名染指草、壽世、指甲花、典籍、鳳兒花、汝南、透骨草、同上、同名多シ、本

草、透骨子ハ淡竹葉ナリ、指甲草、廣東、指甲桃、同上、滿堂紅、寧波、夾指紅、山東、増、一名鳳

娘、西湖志

春種ヲ下ス、宿子地ニアルモ亦自生ス、莖ハ圓大、葉ノ形桃葉ノ如ク密ニ互生ス、葉莖共ニ淡綠色、

夏ニ至リ葉間ゴトニ花ヲ開ク、單葉ノ者ハ二瓣、二葉ノ者ハ多瓣ナリ、色ニ品多シ、紅アリ、紫アリ、

紅花紫萼アリ、淡紅アリ、水紅アリ、雜色アリ、白花ノモノ稀ナリ、唐山ニハ黃花ノ者モアリト云、和